

# 安居神社由緒略記

鎮座地

大阪市天王寺区逢阪一丁目三番二十四号

御祭神

少彦名神  
すくなひこなの

菅原道真公  
すがはらみちざねこう

境内末社

玉姫稻荷神社

御祭神  
宇迦之御魂神  
うかがのみたまのかみ

金山彦神社

御祭神  
金山彦神  
かみやまひこのかみ

山山彦神  
やまやまひこのかみ

淡島神  
あわしまのかみ

当神社は、茅渟ちぬの海うみ（大阪湾）を遙かに見下ろす景勝の地に在る。その創建の年代は古文書の散佚せるため詳らかではないが、聖徳太子が四天王寺を建てられた頃であろうと伝えられている。

御祭神少彦名神は、記紀神代の巻によると、大国主神と相並び、共に力を合わせて、国土経営にあたり給い、又種々の病を治療する方法を創り定め、その上禁厭まじの法を以て諸々の汚穢災厄を祓い除かれるなど、国中に深い恩恵をほどこされた御神威あらたかな神である。

又、菅原道眞公は、学問の神としてのみならず、人の世の災難艱苦に深い御慈悲を垂れ給う御神徳の高い神として、天満天神ともたたえられている。

けだし公は、逆境に沈んで不平なく、流謫に泣いて怨恨なく、その忠誠心には一点の汚れもなく、清明透徹至純そのもので、人心を超えて正に神の境地にあらせられた。

この道眞公が、筑紫に左遷され給う道すがら当境内にしばし安居やすされた（憩われた）という旧址の縁を以て、公の薨後四十年を経て天慶五年（西暦九四二年）ここにその神霊を合祀され給うたことはいみじくも畏いかぎりである。

当神社の御神徳を蒙った多くの人々の中でも大丸の業祖、下村彦右衛門正啓居士は享保十一年（西暦一七二六年）、この難波の地に於て開店するに際し社殿を修築し、又境内地拡張のため敷地を寄進するなど、奉賽の誠心をささげられたのである。

爾来歴代大丸店主の当神社に対する信仰は極めて篤く、世に大丸天神と称せられる所以である。

境内に、古より安井、或はかんしずめの井、と称する清冽なる水の湧出する井戸あり、霊水として広く知られているが、現在は四囲の状況に禍され、枯渴の状態にある。

又、大阪夏の陣における眞田幸村戦死の地と伝えられ、その石碑が建っている。昭和二十年、太平洋戦争の災禍をうけ一切の建物は烏有に帰したが、大丸を始め同社の取引業者の親睦組織である大丸会の奉賛寄進により、同二十六年春に社殿並に社務所が立派に復興され、現在種々の祭典が盛大に執行されている。

## 祭典

月次祭	祭	毎月一日二十五日	例	大祭	四月二十五日
歳旦祭	祭	一月一日	幸村祭	祭	五月七日(又は五月五日)
初天神祭	祭	一月二十五日	夏祭	祭	七月二十五日
祈年祭	祭	二月十七日	秋祭	祭	十月二十五日
玉姫稻荷祭	祭	三月十五日	新嘗祭	祭	十一月二十三日
その他(個人の依頼により執行)					
神前結婚式、地鎮祭、祈願祭等					
以上					